

平成 30 年 12 月 18 日

第 3 4 回「県民文化奨励賞」の贈呈について

一般財団法人ケンシン地域振興財団では、地域の文化活動に対する表彰事業を目的として、地域の文化活動の発展に功績のあった方々に「県民文化奨励賞」の贈呈を行いました。

1. 第 3 4 回「県民文化奨励賞」贈呈式

日 時 平成 3 0 年 1 2 月 1 7 日 (月)

場 所 オリエンタルホテル広島

2. 受賞者

県民文化奨励賞

才田 博之 氏 (画家) 東広島市在住

中村 めぐみ氏 (音楽家) 広島市在住

3. 受賞者の紹介

才田 博之氏 (画家)

才田氏は、昭和 4 8 年に東広島市で誕生。2 0 歳の時から本格的に絵画を学び始められる。広島大学、大学院在学中の 6 年間において、平成 8 年第 4 回公募「広島美術展」では奨励賞、平成 9 年第 4 9 回広島県美術展では奨励賞、平成 1 0 年第 1 3 回国民文化祭「美術展」佳作賞、第 6 回公募「広島美術展」優秀賞を受賞されるなど華々しく画壇に登場。卒業後も旺盛に作品発表をおこなわれている。

氏は、現代社会の特長を独特な視点において切り取りユニークな表現において作品化をされており、作品発表を通じて、「現代を生きる日本人だからこそ描ける世界を追求したい」、そして「広島を見て生きていきたい」という思いを伝えておられる。

作品『クルマエビのニケ』では、広島の復興を瀬戸内海の幸「クルマエビ」や水という側面から考えられており、汚染された広島からの復興は困難であるとの意見もあったが、自然、そして時間が洗い流し、生きた人達の多様な人生から今現在の広島の姿がある。広島市民の戦後の営みと勝利を表現されている。

氏は、広島県立高等学校美術科教諭として若い世代への美術教育にも携わっており、現在は、広島県立高陽東高等学校において美術科の教鞭をとられている。後進の指導においては、生徒ひとりひとりの創造力を大切にされており、自由な作品制作に取り組めるサポート、授業での共同制作へのサポートなどをされておられます。

中村 めぐみ氏（音楽家）

中村めぐみ氏は、山口県で幼少期を過ごされる。小学校3年生で入った学校の吹奏楽部でフルートに出会い、平成3年3月に国立音楽大学器楽学科フルート専攻を首席で卒業。平成6年ドイツロベルトシューマン音楽大学大学院器楽学科フルート専攻を首席で卒業。卒業後の平成8年にはドイツ国家演奏家試験に満場一致で合格。ドイツでは、ハーゲン歌劇場 オーケストラにて契約団員として在籍される。平成9年4月には、日本帰国後、8月神戸フルートコンベンションコンクールソロ部門において2位入賞。平成10年5月広島交響楽団フルート奏者オーディションに合格し、以来、在籍されている。

氏は、家庭的で温かい雰囲気があふれる広島交響楽団の中で演奏を出来ることに幸せを感じられておられ、「ヒロシマ」に存在するオーケストラの一員として、音楽に平和のメッセージを込めて演奏活動をされている。

また、広島交響楽団のメンバーと木管五重奏やフルートカルテットなどのアンサンブルで、県内の障害者施設や老人ホームなどにてボランティアのコンサートを行われたり、平成24年東日本大震災復興支援チャリティコンサート、平成26年広島土砂災害復興支援チャリティコンサートをされるなど、社会活動にも取り組まれている。

平成12年4月からは、エリザベト音楽大学において教鞭をとり、後進の指導にも力を入れられ、これからの広島県の音楽文化を担う若手の育成に力を注がれている。平成28年10月には初のソロアルバム＜P i e c e o f S o u l ～魂の故郷へ～＞をリリース。明るく柔らかなフルートにギターが優しく寄り添い、曲間には鳥のさえずりや川のせせらぎなど、自然の中にいる感覚を味わえます。